

ニセコのミライを、彩る仕事

～多様な人々が暮らすまちで、住民の暮らしを色鮮やかに
人とかわる、地域を支える、未来を考える

北海道ニセコ町は、5,000 人規模という小さな自治体では珍しく、人口が微増し、今後も人口維持が見込まれています。世界的にはパウダースノーが有名で、インバウンド経済の象徴のようなリゾート地としてメディアでは取り上げられることが多い一方、住民自治と情報公開のまち、持続可能な農業を大切にしている農村です。

そんなニセコ町では、近年、SDGs 未来都市として「環境を生かし、資源、経済が循環する自治のまち」を目指しています。同様に、多様性を重視しているニセコ町では、町役場においても社会人経験者採用や民間企業からの出向など、多様で幅広い視点を取り入れた行政組織を形作っています。

今回は転職後に、ニセコ町役場の頼られる中堅技術職となった E さんにお話を伺いました。

本日のインタビューでお話を伺った方

E さん

江別市出身。2018 年に入庁。技術職枠採用で都市建設課土木係兼管理係に在籍。道路の計画、設計、工事、維持管理業務と道路に関する全てを担当。前職は建設コンサルタントで、計画から維持管理まで一貫して行える公務員（技術職）の仕事に興味を持つ。

ニセコ町へは、前職の業務で度々来ており役場職員と面識があった。また、自然の豊かさが自身が生まれ育った環境（江別市の農村地区）に似ていたこと、札幌へのアクセスも許容範囲内であることから、ニセコ町役場への転職を決意。

ギャップはあった？ 技術職の転職者から見たニセコ町と役場

ーニセコ町に来る前に感じていた期待と、働いてみてのギャップはありましたか？

前職では発注者である自治体との交流があり、業務内容はおおよそ把握していたので、そこまで大きいギャップはなかったですが、強いて言えば、発注業務や決裁などに付随する事務作業の細かさには驚きましたね（笑）。

また、前職のコンサルタントでは、発注依頼を受けたものを「作る」ことに特化していて、作ったら終わりでしたから、役場での仕事は、計画して作るところから維持管理まですべての流れを担当する仕事で、自分の期待していた通りの業務内容だと思いました。それにコンサル時代は、自ら企画するという仕事はなかったですが、役場の仕事では、実際に現場を見て調整をしたり、現場の状況に応じて企画したりできるところは面白いです。

専門に特化した形で働ける大きい組織が好きな人もいるでしょうが、ニセコ町役場のような小さな組織で、なんでも屋さんともいえるような現在の環境は、自分には適していると思っています。一人ひとりの顔が見える職場であることも、町民や同僚から困りごとがあったら相談されるのも良いですね。

―職場での経験で良かったことや苦勞したことはありますか？

良かったことは、住民に感謝されることです。前職では委託を請けて設計や計画立案する立場ですから、住民から直接感謝の言葉をいただく機会はなかったのですが、今のように業務に対して感謝の言葉がもらえると、人の役に立てているという実感が持てます。

苦勞していることは、計画を立て、作り、その後も長期にわたって管理するというのは、やはり業務量的には多く、大変だということですね。とくにニセコ町特有の事柄になりますが、開発行為や土地の動きが活発なので、民間の案件での電話での問い合わせや窓口の対応業務も多く、デスクワークの業務時間が細切れになる場面が多いことには苦勞しています。

※編集者注：2026年度から都市建設課では、開発案件等の問い合わせは指定のフォームに入力した上で、事前予約制を開始しています



―ニセコ町で働くことについて、どう感じていますか？

とにかくやりがいや実感があるのが大きいです。給与は前職と比べて上がったわけではないのですが、やりがいを感じながら働けるのは良いことだと思います。また、ここは自然が豊かだったり、英語などの外国語が飛び交っていたりと、そういう環境は道内でも限られると思うので、住み心地が良い環境というのも大きいと思いますね。

冬季の自分は除雪をするくらいで、スキーなど自然でのアクティビティを楽しむ機会はあまりないのですが、そういったことが好きな人は、私よりもっと良い環境だと感じるのではないのでしょうか。ただ住むことに関しての問題点は、住宅が簡単には見つからない、つまり住宅数が不足していることで、その解決のため町内では様々な賃貸住宅建築のプロジェクトが進んでいます。

—自分で判断・提案する場面はどのくらいありますか？

他の自治体はどうかかわからないですが、道路という性格上、大きな案件（道路の新設や付け替えなど）については、係長や課長の提案や判断というよりも、政策案件であり、町長など上から指示されて進めることが多かったです。ただ日常の維持管理業務などは自分の判断で進める裁量は与えられていますし、自らが提案もできます。

—上司との距離感はどうですか？

近いと思いますね。職員は全員顔もわかるし、上下関係なく、話しやすい環境にあると思います。

—プレッシャーや責任の重さを感じる場面はありますか？

工事では、設計図どおりに本当に現場で形になるのかというのは毎回心配だし、物を作るというのは一点ものなのでいつも大変だなと思いますが、地元業者のみなさんが地域のために助け合う精神でやってくれているので、そこまでの大きなプレッシャーはないです。

自分は気が弱いので、プレッシャーには弱いですが、業務の中で外勤して現場を確認したり、周りの支えを受けたり、プライベートでは外で自然に触れたりすることで、穏やかに仕事が出来ていると思います。



—自分の仕事がまちに影響したと感じた場面はありますか？

新規ではニセコミライの町道敷設の仕事が一番大きい仕事だったと思いますね。施設などの建築は目に見えるのでわかりやすいと思いますが、道路はそもそも目立たない仕事で、当たり前そこにあって機能することが重要です。その地味な仕事が自分には性に合っているというか、好きでやっています。

ニセコミライの住宅地開発も出来上がってしまえば、道路はそこにあって当たり前だと思われるようになるので、次はそれをしっかり維持管理していきたいと思います。



写真：Eさんが手がけたニセコミライの町道。あと数年でここには住宅が立ち並び、住民にとって「あって、機能して当たり前」の重要なインフラとなる

ニセコミライとは？

2018年にニセコ町がSDGs未来都市に採択された際のモデルプロジェクトで、地域課題の住宅不足や戸建て住宅（大家族用）と住民（核家族）のミスマッチを解消するための新興住宅地。開発エリアは6ha、住人は最終的には400人規模となる予定。全4工区のうち、1工区はすでに共用されており、2～3工区の町道インフラも2025年度には完成している

こんな人と働きたい

ーニセコ町役場に向いている人はどんな人だと思いますか？

調整する能力の高い人は向いているのかなと思います。またニセコ町役場に性格のきつい人はいないと思いますし、仲良く穏やかに仕事をしているので、そこに溶け込めれば良いのではないのでしょうか。

それから地域に根差した仕事がしたい人、何かの専門にこだわるよりどの部署でもこなせるオールラウンダーの方が役場には向いているのではないかと思います。いろいろなことに興味を持てたり、好奇心を持って仕事に向き合い、誠実に深めていこうという姿勢を持たれている方は相性が良いと思います。



ー未来の世代に対する期待や想いは？

今後、AIが発達して人間の役割が変わっていく将来になると言われています。公務員もバックオフィスの仕事が減って、もっと現場に割く時間が増えるようになるかもしれない。そんな時代ですから、新たな役割を切り開き、これまでの業務の見直しができるような若い力に期待したいです。

同時にこれからは成長していくよりも成熟していくような時代だと思います。自分たちの世代は、採用難だったり、デフレだったり少し暗い時代でもあったので、これからは、明るい時代になって未来の世代に活躍してほしいなと思いますね。